



経歴・研究業績（岩崎信彦教授 退職記念号）

(Citation)

社会学雑誌, 24:9-14

(Issue Date)

2007-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCDOI)

<https://doi.org/10.24546/81011064>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81011064>



◇◇◇ 経歴 ◇◇◇

一九四四（昭和一九）年四月
 一九五九（昭和三四）年四月
 一九六二（昭和三七）年四月
 一九六六（昭和四一）年四月
 一九六八（昭和四三）年四月
 一九七一（昭和四六）年四月
 一九七二（昭和四七）年四月
 一九七七（昭和五二）年四月
 一九七八（昭和五三）年四月
 一九八三（昭和五八）年四月
 一九八三（昭和五八）年四月
 一九八四（昭和五九）年四月
 一九八八（昭和六三）年一月
 一九八九（平成元）年五月
 一九九四（平成六）年五月
 一九九四（平成六）年七月
 一九九五（平成七）年五月
 一九九八（平成一〇）年一月

北九州市に生まれる
 福岡県立小倉高校入学
 京都大学文学部哲学科入学
 京都大学大学院文学研究科社会学専攻修士課程入学
 同 博士課程入学
 同 研修員
 高野山大学文学部講師
 同 助教授
 立命館大学産業社会学部助教授
 神戸大学文学部助教授
 同 大学院文学研究科修士課程担当（～現在）
 同 文化学研究科博士課程担当（～現在）
 日本社会学会理事（九一年一月まで）
 関西社会学会委員（九二年五月まで）
 地域社会学会庶務理事（九六年五月まで）
 神戸大学文学部教授（現在に至る）
 関西社会学会委員（九八年五月まで）
 日本社会学会財務理事（二〇〇〇年一月まで）

二〇〇一（平成一三）年六月

二〇〇二（平成一四）年六月

二〇〇二（平成一四）年九月

二〇〇七（平成一九）年三月

関西社会学会常任理事（〇四年六月まで）

地域社会学会会長（〇四年六月まで）

神戸大学文学部長・文化学研究科長（〇四年八月まで）

神戸大学文学部定年退職

◇◇◇ 研究業績 ◇◇◇

【編著書】

一九八二年九月（共著）『現代労資関係の理論』青木書店（「現代労資関係への視角」）

一九八六年五月（共編）『農村（リーディングス日本の社会学6）』東京大学出版会

一九八六年九月（共著）『都市論のフロンティア』有斐閣（「都市の危機が意味するもの」）

一九八九年二月（共著）『町内会の研究』御茶の水書房（「町内会をどのようにとらえるか」「地域生活と町内会」「宗教

と町内会」「町内会の可能性」）

一九八九年四月（共著）『都市社会運動の可能性』自治体研究社、（「住縁アソシエーションとしての町内会」）

一九九五年十一月（責任編集）『阪神大震災研究1 大震災100日の軌跡』神戸大学震災研究会、神戸新聞総合出版セン

ター（避難所運営のしくみと問題点）「復興まちづくりに向けての住民のとりくみ」

一九九七年二月（責任編集）『阪神大震災研究2 苦闘の被災生活』同上（「町内における救助と避難の実状そして苦勞

と喜び」「激甚被災地における住民の一年余の生活実態」）

一九九七年五月（責任編集）『阪神大震災研究3 神戸の復興を求めて』同上（「区画整理事業一六地区における住民の

苦闘と前進」「長田区鷹取東(第一) 地区における区画整理事業の歩み」

一九九九年二月(共著)『阪神・淡路大震災の社会学第1巻 被災と救援の社会学』昭和堂(「重層的な都市瓦解としての阪神・淡路大震災」「町内における救助と避難の実状」)

一九九二年二月(共著)『阪神・淡路大震災の社会学第2巻 避難生活の社会学』昭和堂(「被災者の意識の展開と構造」)

一九九二年二月(共著)『阪神・淡路大震災の社会学第3巻 復興・防災まちづくりの社会学』昭和堂(「いま被災地は

― 阪神・淡路大震災から3年 ―)

一九九九年一二月(責任編集)『阪神大震災研究4 大震災5年の歲月』神戸大学震災研究会、神戸新聞総合出版センター(「復興まち壊し土地区画整理事業は今回で終わりに」)

二〇〇一年六月(共編)『ゲオルク・ジンメルと社会学』世界思想社

二〇〇一年六月(共著)『21世紀の橋と扉』世界思想社(「墮落する世俗の神Ⅱ貨幣」)

二〇〇二年一月(責任編集)『阪神大震災研究5 大震災を語り継ぐ』神戸大学震災研究会、神戸新聞総合出版センター(「阪神大震災は天災だったのか人災だったのか」)

二〇〇二年七月(共著)『少子高齢時代の都市住宅学』ミネルヴァ書房(「世代間関係の変容と地域社会の可能性」)

二〇〇三年三月(共著)『海外における日本人 日本のなかの外国人』昭和堂(「移民流動の分析枠組とエスノスケープ」)

二〇〇六年三月(共著)『貨幣の哲学』という作品』世界思想社(「貨幣の実体価値」「人格的価値の貨幣等価物」)

二〇〇六年五月(共同監修)『地域社会学講座3 地域政策とガバナンス』東信堂

【学術論文】

一九六九年七月「アジアの生産様式について」『ソシオロジ』一五巻一号

一九七二年四月「マルクスにおけるゲマインシャフトとゲゼルシャフト序説」『ソシオロジ』一七巻三号

一九七四年三月「農民層分解の現段階…一九六〇年から一九七〇年の長野県小諸市平原・御影地区」『高野山大学論叢』
六号

一九七五年四月「資本主義における生産組織体の矛盾とその克服をめぐる」『科学と思想』一六号

一九七六年三月（共著）「みかん旧産地における農民層分解と農業組織の展開」『高野山大学論叢』一一号

一九七八年一〇月『みかん危機』のもとでの村落生活の変化と主体的再編成」『村落社会研究』一四集

一九八〇年九月（共著）「大都市周辺地域における地域生活と住民組織」『立命館産業社会論集』二五号

一九八一年一〇月「大都市周辺における地域生活と住民組織（その二）…大阪府寝屋川市の事例」『立命館産業社会論
集』二九号

集』二九号

一九八二年七月「市民社会の構造連関と現代社会」山本英治編『現代社会と共同社会形成』有斐閣

一九八三年四月「生活の資本主義化と地域社会」布施鉄治他編『現代日本の地域社会』青木書店

一九八三年九月「社会学における村落社会研究の動向…戦後日本を対象とした研究について」『村落社会研究』一九集

一九八四年三月「自動車産業労働者における労働生活と疎外」『神戸大学文学部紀要』一一号

一九八五年二月「労働者定着政策と労働生活」小山陽一編『巨大企業体制と労働者』お茶の水書房

一九八六年三月「人口急増下の衛星都市・その社会と政治…大阪府寝屋川市を事例として」『神戸大学文化学年報』
五号

一九八六年三月「日常生活と社会学理論（試論）」『社会学雑誌』三号

一九八六年一月「日本的なものへの視角」『思想と現代』七号、白石書店

一九八六年一月「生活の都市化…その概念と実像」真田是編『現代日本の生活構造』有斐閣

一九八八年三月「貨幣と価値—シンメルとマルクス」『神戸大学文学部紀要』一五号

一九八八年三月「一九八〇年代中盤の社会意識」『神戸大学文化学年報』七号

- 一九八八年三月「日本の拜金主義の構造」『社会学雑誌』五号
 - 一九八九年三月(共著)「木賃住宅の町に住みあう人々の生活史」『同時代人の生活史』未来社
 - 一九八七年七月「町内会の歴史と可能性」『都市問題研究』四一卷七号
 - 一九九〇年三月「象徴交換と日本的コミュニケーション」『思想と現代』二二号、白石書店
 - 一九九〇年五月「日本文化と現代世界」木田融男他編『変貌する社会と文化』法律文化社
 - 一九九二年三月「新しい資本論のために」『神戸大学文化学年報』一〇号
 - 一九九二年五月「資本論はまちがっていなかったか」『社会主義を哲学する』大月書店
 - 一九九八年五月「『国家都市』神戸の悲劇と『市民社会』の苦闘」『地域社会学学会年報』一〇号
 - 二〇〇〇年九月 Role and Functions of Local Communities in Earthquake Rescue, Shelter Administration and Reconstruction, *International Journal of Japanese Sociology*, 9
 - 二〇〇二年三月「現代日本における自殺の諸相」『神戸大学文学部紀要50周年記念論集』
 - 二〇〇二年三月「市民社会とリスク認識—阪神大震災の意味するもの」『社会学評論』五二巻四号
 - 二〇〇六年三月「被災地に生まれ育つ『市民社会』のすがた」『社会学雑誌』二三号
 - 二〇〇六年五月「日本式『羞耻』结构的発展方向」(「日本的『羞耻』の構造のゆくえ」)、「日本国内关于日本文化研究の最新动向」(「日本における日本文化研究の最新动向」)、主編孫新・副編王偉『世界中的日本文化—摩擦与融合(世界の中の日本文化—摩擦と融合)』国際文化出版公司
- 【報告書】
- 一九八三年三月『入会林野と近代的野菜生産』(科学研究費報告書)
 - 一九八三年三月「豊田市におけるコミュニティ政策の展開と住民の対応」『トヨタ調査第2次報告書』(科学研究費報告書)

一九八六年三月（共著）「大阪都市圏と千里ニュータウン」『千里ニュータウン住民の地域生活要求と生活様式について
の総合研究』（科学研究費報告書）

二〇〇一年三月（共著）「郊外都市の変動とその構造」「三田市における農業の展開」『兵庫県内農村社会の変動過程に
関する研究』（科学研究費報告書）

二〇〇四年一月 *Evacuations and Sheltering Problems of Commuters in an Urban Earthquake Disaster: The Case Study
in which a Great Earthquake Occurs in Osaka City during the Daytime, Urban Earthquake Disaster Process
Modeling and Real Loss Estimation*（国際シンポジウム報告書）

二〇〇五年三月「日本の意識の構造と解体」『日中の文化関係を考える（その二）』（法政大学国際日本学シンポジウム
報告書）

【翻訳】

一九九三年一〇月（共訳）T・H・マーシャル、T・ポットモア『シティズンシップと社会的階級』法律文化社